

# 平成 27 年度事業報告について

## 【共通事業】

### 1. 総会

(1) 日 時 平成 27 年 4 月 21 日 (火) 13:45~16:00

(2) 会 場 アオッサ 6 階 607 研修室

(3) 結 果

①福井市環境関連補助金説明会

②総会 \*下記の議案について全て承認(出席者58名/うち31名は議長委任による出席)

・第 1、2 号議案 平成 26 年度事業報告および収支決算報告について

・第 3 号議案 環境活動普及・推進部会の設置について

・第 4 号議案 役員の選出について

・第 5、6 号議案 平成 27 年度事業計画(案)および収支予算(案)について

③会員情報(名刺)交換会

### 2. 理事会の開催状況

第 1 回理事会 11 月 30 日(月)	平成 27 年度事業の中間報告(決算も含む)を行い、事業の問題点等について協議した。また、「福井市環境基本計画」の改定についても議論し、推進会議の目的と方向性、それに伴う事業のあり方についても協議した。
第 2 回理事会 2 月 23 日(火)	(以下について、協議) ・平成 27 年度事業及び決算(見込)報告について ・福井市環境基本計画の改定について ・平成 28 年度事業計画(案)及び予算(案)について 他

### 3. 福井市環境フェア

(1) 目 的 福井市の環境活動の取組を分かりやすく市民に啓発するため、「環境にやさしい持続可能なまち」をテーマに推進会議の会員を中心とした 43 の団体や企業・大学が出展し、再生可能エネルギーの普及、車に頼り過ぎない社会、一般廃棄物の削減、里山の保全と利活用などについて分かりやすく紹介し、市民の環境意識の向上を図る。

(2) 日 時 平成 27 年 10 月 10 日(土)~12 日(月・祝)

(第 14 回大和田げんき祭り同時開催)

(3) 会 場 福井新聞社(10 日のみ)、FBC 本社前イベント広場

(4) 協 賛 えちぜん鉄道(株)、京福バス(株)、(株)田中化学研究所、轟産業(株)、日華化学(株)  
日本システムバンク(株)、福井環境事業(株)、福井県環境保全協業組合、フクビ化学工業(株)  
(株)法美社、(株)北陸環境科学研究所、(株)増田喜、(株)マルツ電波、村中建設(株)

(5) 内 容

#### 【福井新聞社会場】

・福井市環境保全功労者表彰(個人 2、団体 3)

・パネル展示等による市民組織、事業者及び行政の取組(活動)紹介

・環境講演会(「第 10 回 3R 推進全国大会 in ふくい」関連イベント)

【テーマ】先進地に学ぶ循環型社会の構築

【講師】(公財)廃棄物・3R 研究財団 藤波博氏

・eco 実験パフォーマンス 【講師】らんま先生(環境省認定「エコパフォーマー」)



- ・一乗谷ネイチャーウォーク ・企画展「守り伝えたい福井の里地・里山」
- ・工作教室（親子ネイチャークラフト） ・バスの乗り方教室
- ・環境団体交流会（団体の活動報告と意見交換）

参加団体：菜の花公夢典ひがしあご、NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会  
福井工業大学笠井研究室、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会  
ふくい森の子自然学校（NPO法人自然体験共学センター）

- ・まだまだ使えます！抽選会（不用な自転車や家具など約 50 点を抽選で配布） ・不要小型家電の無料回収
- ・電動バイク、電動アシスト自転車試乗 ・電気自動車、燃料電池自動車の展示

【FBC イベント広場】

- ・ジビエ料理（イノシシ鍋）のふるまい ・環境配慮商品の販売/紹介 ・環境保全普及啓発展示

(6) 来場者数 福井新聞社会場：981 名 FBC イベント広場：4,890 名

(7) その他 来場者に対し、環境意識に対するアンケート調査を行った（回答数 148 家族）。

**福井市の「将来守り伝えたい自然」としてイメージするものは？**

【里地・里山】42% 【越前海岸】32% 【生き物・植物】26% 【一乗谷】23%  
【九頭竜川】23% 【足羽三山】14% 【足羽川】11%

**今後取り入れたい環境配慮型の製品や設備は？**

【EV・PHV】44% 【太陽光発電】34% 【二重窓】32% 【雨水タンク】18%  
【省エネ型給湯器】14% 【太陽熱温水器】9% 【遮熱塗装】9% 【HEMS】3%

**地球温暖化対策として必要な取組は？**

【家庭での省エネ】58% 【学校での環境教育】39% 【環境配慮型製品の使用】41%  
【公共交通機関の利用】21% 【環境学習会への参加】11% 【マスメディアの啓発】9%



・オープニング



親子ネイチャークラフト



まだまだ使えます抽選会



団体・企業出展ブース



ジビエ料理のふるまい

**3. その他（関連イベント出展）**

【 第9回モビリティウィーク&カーフリーデーふくい2015 】

- ・ 9月 19日（土）アオッサ1階アトリウム
- ・ 10月 4日（日）福井駅前電車通り（まちフェス会場内）

【 ～旬のジビエであったかほかほかウォームシェア～ PRイベント 】

- ・ 11月 23日（月・祝）西武福井店公開広場（2F）

## 【自然創造部会】

自然環境を後世に残していくために、地域や関係団体と連携して自然保護・再生活動に取り組む。また、地域の優れた自然環境について広く市民に広報し、自然環境保護意識を高める。

部会員（五十音順、敬称略）

氏名	所属
天谷 堅司	サカイオーベックス株式会社
草桶 秀夫	学校法人金井学園福井工業大学
酒井 大祐	福井ライオンズクラブ
重森 正雄	安居の里を守る会
白澤 照久	日本ピオトープ管理士会福井県支部
瀬戸 靖夫	日本野鳥の会福井県
多田 憲市	NPO法人農と地域のふれあいネットワーク
川上 司	公益社団法人福井青年会議所
山下 征夫	福井県ホテルの会

### 1. 部会の開催状況

第1回部会 5月28日(木)	「守り伝えたい自然の保全活用事業」として、上味見地区の団体と連携して活動を進めることとした。また、「足羽三山の自然環境調査」の実施方法を確認した。
第2回部会 6月9日(火)	＜部会学習会＞「安居地区のホテルを活かしたまちづくりについて」 「安居の里を守る会」より、自然保護活動を地域ぐるみで継続していくためには「子どもが参加する」、「大人が楽しんで活動する」が大切である、また、ホテルをシンボルとして始まった活動が、今では「未更毛川クリーン作戦」、「未更毛川の生き物観察と水質調査」など多岐に広がっているとの説明を受けた。
第3回部会 9月15日(火)	＜部会学習会＞「三里浜の自然環境について」 県内有数の海浜植物生息地である三里浜を訪問し、「自然観察指導員の会」から、海浜植物の特徴、三里浜の歴史と現状等について説明を受けた。現在、三里浜周辺の植生は危機的な状況ではないため特別な管理はしていないが、海浜植物は地域の歴史文化と併せた資源として、次世代への引継が必要とのことであった。
第4回部会 11月16日(月)	「福井市環境基本計画の次期改定」、「守り伝えたい自然の保全活用事業」と「足羽三山の自然環境調査」の中間報告、来年度事業の方向性について協議した。
第5回部会 3月3日(木)	上味見地区の「生き物散策マップ」を活用方法など、来年度の具体的な活動について協議した。

### 2. 事業の実施状況

#### (1) 守り伝えたい自然の保全活用事業

- 目的**
- ・福井市の豊かな自然を守り育て、将来に伝えていく。
  - ・パンフレット「守り伝えたい福井市の優れた自然」の掲載地において、地域と連携した「地域環境保全と地域づくりの両立」と、後世に自然を守り育てる方法を検討する。
  - ・多くの市民にパンフレット掲載地の自然に親しんでもらう。

**内容** 上味見（美山地区）の団体と連携して生き物散策マップを作成するほか、自然観察会を開催する。

＜自然観察会の実施＞

- ・6/6（土）伊自良の里バードウォッチング（参加者20名）

- ・7/5（日）環境活動普及・推進部会「みんなの環境学習」（参加者 65 名）

テーマ～「3種のホタルとそのすみか 上味見～福井の守り育てたい自然～」

＜生き物散策マップの作製＞



上味見地区の生き物散策マップ（案）

作成完了：3月上旬

作成部数：1,000部

配布予定先：公共施設、  
自然関係の団体など

## （2）足羽三山の自然保護・再生事業（足羽三山の竹林整備地の植生調査）

**目的** 足羽三山の生態系の保全を図るため、「足羽三山の SATOYAMA を守る会」が整備している竹林の植生を調査し、その成果を確認する。

**内容**＜整備実施状況＞

- ・4/25（土）春の竹林整備（足羽山）：若竹伐採/たけのこ約 15 本
- ・10/17（土）秋の竹林整備（足羽山及び八幡山）：竹の伐採/約 160 本

＜植生調査状況＞

- ・9/30（水）竹林整備地及び未整備地の植生調査（足羽山）

足羽山における竹林整備の効果を検証するため、自然史博物館の協力を得て整備地と未整備地の植生調査を実施した。調査地では植生に明確な差はみられなかったが、著しく光量が増えた道路沿いではシャガの群生が確認できた。

＜啓発看板の設置＞

- ・足羽三山の生物多様性の保全活動の必要性と、保全活動の一環である竹林整備活動を PR するために看板を3月上旬に設置する。（設置場所：足羽山及び八幡山の竹林整備地付近）



整備地の調査場所（1m四方に分割して調査）



シャガ（花期は4月頃）



啓発看板（2ヶ所）

## （3）福井市環境フェア 企画展「守り伝えたい福井の里地・里山」 [10/10（土）]

①里地里山をフィールドとして活動する団体のパネル展

**内容** 来場者へ「福井の里地・里山」の現状の周知、及び関連団体の活動の紹介。

- ・部会員：自然創造部会（上味見地区、一乗地区を紹介）、日本野鳥の会福井県
- ・部会以外：(株)福井新聞社、足羽三山の SATOYAMA を守る会、  
あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会

②親子ネイチャークラフト（参加者 110 名）

**内容** 親子で自然物を利用した工作を通して自然に親しんでもらうことを目的に、「日本野鳥の会福井県」による「巣箱づくり」の他、竹、木材及び木の実を利用した壁掛けやオブジェなどを、親子で作成した。

③一乗谷ネイチャーウォーク（参加者 14 名）

**内 容** 四季折々の草花や生き物が観察できる一乗谷朝倉氏遺跡の魅力を市民にアピールし、遺跡と併せた自然環境の保護について知って頂いた。



## 【エネルギー・資源部会】

地球温暖化防止に向けたライフスタイルの転換を推進するとともに、産学官と連携した環境産業の創出など、新たな取組に関する調査や検討を行う。

部会員（五十音順、敬称略）

氏 名	所 属
秋田 清	フクビ化学工業株式会社
岩佐 陽一	セーレン株式会社
上口 浩史	有限会社上口モーターズ商会
川嶋 正巳	公益財団法人ふくい産業支援センター
高嶋 浩之	北陸電力株式会社
谷 拓哉	日本システムバンク株式会社
南保 勝	公立大学法人福井県立大学
西田 好宏	学校法人金井学園福井工業大学
皆川 陽一郎	株式会社サンワコン
宮川 敏夫	株式会社田中化学研究所
村中 美紀夫	村中建設株式会社
吉川 守秋	NPO法人エコプランふくい

### 1. 部会の開催状況

第1回部会 8月31日(月)	これまでの部会を振り返り、「福井市環境基本計画」の改定に併せた今後の部会の目的と方向性について協議した。また、実施事業の中間報告を行い、明らかになった問題点等についても協議を行った。
第2回部会 11月20日(金)	改定される環境基本計画の実施期間である平成32年度までの部会方針について検討した。また平成28年度の事業計画についても協議を行った。
第3回部会 2月22日(月)	(以下の点について、協議) ・今年度及び来年度の事業（取組）について ・来年度の部会体制について 他

### 2. 事業の実施状況

#### (1)「緑 de 憩いスペース」実施事業

**目 的** 福井市は1世帯当たりの年間電気購入量が多く（県庁所在都市ランキング2位）、温室効果ガス排出量も増加の傾向にある。よって、エネルギー消費量を削減するため、家庭での「緑化」や「雨水利用」を促し、関連産業による「低炭素まちづくり」を推進する。

**内 容** 商店街の潤いや賑わいを創出すると同時に、環境に配慮した生活をPRするため、西武福井店正面に「緑のBIGカーテン」を、屋上に「緑 de 憩いスペース」を設置する。さらに、屋上では「雨水タンク」や「屋上緑化」の利活用についてモデル展示を行うことにより、「生活スタイルの低炭素化」と「新エネ・省エネで快適暮らし支援事業（市補助金）」のPRを行った。

<設置期間> 6/3(水)～10/4(日) <来場者数> 19,947名(屋上)  
 <苗植えイベント> 6/5(金) 西武屋上にて苗植えを行う(幼稚園児75名)  
 <学習会の開催> 8/29(土) 環境活動普及・推進部会「みんなの環境学習」(参加者34名)  
 【テーマ】～雨水利用と緑のカーテンで実現する快適生活～



西武正面/BIGカーテン



西武屋上/憩いスペース



(6/5) 苗植えイベント



(8/29) みんなの環境学習

## (2) 電動バイクシェアリング社会実験事業

**目的** 現在、まちなかでの市民や観光客の移動手段として「ふくチャリ」が活用されているが、自動車からの転換は少ない。そのため、自動車からの転換の可能性の高い電動バイクを数か所に設置し、低炭素なまちづくりを推進するための今後の可能性を検証する。

### 事業概要

【予算額】 750千円

【稼動目標】 CO<sub>2</sub>排出削減量：1,000kg(スギ約70本分の年間吸収量)

稼働率：50%(4ヶ月間で約250回の利用) 車からの利用転換率：60%

【利用者】 原付1種(50cc以下)を運転できる免許を保有する18歳以上の者(高校生を除く)

【実施期間】 平成27年7月1日(水)～平成27年10月31日(土)

【運営時間】 午前9時～午後7時 ※一乗谷朝倉氏遺跡は午後4時30分まで

【保険】 自賠責保険/原付保険(対人・対物無制限、人身傷害3,000万円)

【電動バイク】 プロツァ社製 ミレット 4台

【料金設定】 ※ヘルメット貸出し含む、徴収した料金はポートに帰属する。

利用時間	2時間未満	4時間未満	1日(4時間以上)
利用料金	300円	700円	1,500円



### 【貸出拠点(ポート)】

ポート	貸出場所	設置期間	設置台数
1	京福バスチケットセンター	7月1日～10月31日	2台
2	ユアーズホテルフクイ	7月1日～8月30日	2台
	一乗谷朝倉氏遺跡	9月1日～10月31日	



【駅前イベントでのPR】



【開始式】



【福井新聞】



【市政広報】



【一乗谷散策チラシ】

## 実施結果

### (1) 利用実績（稼働率①/全日程、稼働率②/雨天日を除く）

	京福	ユアーズ	朝倉	合計
7月	22	4	—	26
8月	14	12	—	26
9月	14	—	17	31
10月	14	—	7	21
合計（台）	<b>64</b>	<b>16</b>	<b>24</b>	<b>104</b>
稼働率①	<b>26%</b>	<b>13%</b>	<b>20%</b>	<b>21%</b>
稼働率②	37%	17%	23%	28%
料金収入	29,000 円	7,200 円	7,200 円	43,400 円

### (2) CO<sub>2</sub>削減量 \*利用の平均距離を 25km、車からの利用転換率を 39%（いずれも利用者アンケートより）

【(ガソリン車排出係数) × (平均利用距離) × (利用回数) × (車からの転換率)】

— 【(電動バイク排出係数) × (平均利用距離) × (利用回数)】

= 【0.3 [kg-CO<sub>2</sub>/km] × 25 [km] × 104 [回] × 0.39】

— 【0.011 [kg-CO<sub>2</sub>/km] × 25 [km] × 104 [回]】 **≒ 280 [kg-CO<sub>2</sub>]**

**(1 利用あたり約 2.7kg の削減)**

### (3) 利用者の属性 \*貸出伝票（利用毎）及び利用者アンケート（回答数：45）から集計

【性別】男性：92%

【年齢】20代～60代まで幅広い世代が利用

【利用時間】2時間未満の利用：76% 【利用料金】93%が満足

【居住地】(県外) 60%, (市内) 21%, (県内/市外) 19% 【普段のバイク利用】乗らない：64%

【利用目的】(観光・散策) 62%, (業務・出張) 16%, (買物・飲食) 13%

【サービスを知った場所】ポート周辺ののぼりや看板：71%

【バイクがなかった場合の移動手段】自動車：39%（←自動車からの転換率）

## 課題と対策

### (1) CO<sub>2</sub>削減量の増加（利用者数および車からの利用転換率の向上）

稼働数は104回と少なかったが、稼働率では「ふくチャリ」の1年目より高い21%であった。「ふくチャリ」の運用も今年で4年目に入り認知度も高まった結果、市民の利用割合も高くなってきていることから、「電動バイク」も同様に、広報活動を継続することにより利用数が増え、CO<sub>2</sub>をより削減できると考えられる。一方、自動車からの利用転換率は39%となり、「ふくチャリ」の15%と比較しても高く、移動手段の低炭素化に一定の効果があつた。ただし、当初見込んだ60%は下回っている。

→ 環境にやさしい移動手段であることを、環境推進会議会員と共にPRするなど、一層の努力が必要である。

### (2) 電動バイクの性能向上

社会実験期間中、バッテリー切れによるトラブル（6件）が発生しており、アンケート調査でも、「航続距離や登坂力・加速力の向上」を求める意見（21件）が挙げられている。利用者増を図るためにも、改善が必要である。

→ 航続距離が長く出力の大きな機種を選定し、利用者に安心・安全な電動バイクを提供する。

### (3) ポートの配置

#### ①京福バスチケットセンター

福井駅東口を出てすぐの場所にあることから、稼働率も高い（26%）。アンケート調査では利用者のうち71%が「のぼりや看板を見てサービスを知った」と回答しており、駅の構内やチケットセンター付近で効果的なPR

をすることにより、利用者数の増加が期待できる。

## ②ユアーズホテルフクイ

ふくチャリと同様に、利用者のほとんどが宿泊客であると考えられる。ホテルの各部屋にパンフレットを設置するなどして広報に努めたが、稼働率は低い結果となった（13%）。

## ③一乗谷朝倉氏遺跡

観光地であるため、休日（特に連休）の利用が多い。観光客からの聞き取り調査（57名回答）で、「電動バイクを借りない理由」を尋ねると「時間がない（既に旅程を決めている）」（23%）との回答が多かった。また、家族連れなどの複数人での来訪がほとんどで、利用の条件が整わないケースが多かった。この傾向は今後も同じであると考えられる。

→ これまでの「ふくチャリ」のポート動向を検証し、稼働率の上昇が見込めるポートを選択する。

## (4) 収支の改善

利用料金（2時間未満 300円、4時間未満 700円）について、93%の利用者が「満足」と答えているが、他の先進地（柏市：15分 100円、徳島市：1時間 200円）に比べると安く、事業収入が少ない。

→ 事業採算性の観点から利用者増を図ると同時に、利用料金についても見直す必要がある。

また、「ふくチャリ」同様、車体への企業広告の掲出等で収入を得る方法も模索する必要がある。

## (5) 天候等への対応（社会実験期間中の稼働率は21%、雨天日を除いた利用率は28%）

アンケート調査では、「雨天時も考慮して車もあると良い」という意見が挙げられた。また、「ヘルメットが嫌」「危ない・怖い」という理由から、利用者に占める女性の割合が8%と少ない。

→ 「環境負荷が少ない」、「雨天時にも対応可能」、「ヘルメット不用で利用可能」な移動手段（超小型EV車）の導入検討。

## 【環境活動普及・推進部会】

環境保全意識の向上を図るための普及啓発を行うことにより、持続可能な社会の実現に向け行動する市民を育成する。また、他の部会と連携することで、効果的な事業を展開する。

部会員（五十音順、敬称略）

氏名	所属
井上 博行	福井大学 教育地域科学部 准教授
桶谷 治寛	技術士・環境計量士
笠井 利浩	福井工業大学 環境情報学部 教授
堤端 充	(特非)ふくい路面電車とまちづくりの会 理事
坪内 彰	技術士・環境計量士
藤原 一功	福井県環境アドバイザー

## 1. 部会の開催状況

第1回部会 5月12日(火)	実施する3事業について協議を行った。 ①みんなの環境学習 ②ふくい環境ゼミナール →事業の委託先を決定 ③家庭でできるエコ活動 →木田・松本・旭地区にて実施することとした。
第2回部会 9月7日(月)	事業の中間報告と環境フェアで実施する「環境団体交流会」の企画について、また「福井市環境基本計画」の次期改定について協議した。

第3回部会 11月13日(金)	事業の中間報告と来年度の事業について協議を行なった。 ①みんなの環境学習 ②ふくい環境ゼミナール →事業企画案について協議 ③家庭で実施するエコ活動 →中心市街地地区で実施できるよう、各地区と協議をしていくこととした。
第4回部会 3月9日(水)	今年度事業の課題抽出と、来年度事業(取組)の方向性について協議を行った。

## 2. 事業の実施状況

### (1) 環境啓発・教育事業

①みんなの環境学習(年間5講義) *計196名受講	
内 容	<p><b>目 的</b>市民を対象として、環境に関する情報提供や初歩的な学びの場を提供する。</p> <p>①7/5(日) 参加者65名(自然創造部会連携) 「3種のホタルとそのすみか」 講師:草桶秀夫氏(福井工業大学教授)</p> <p>②8/29(土) 参加者32名(エネルギー・資源部会連携) 「雨水利用と緑のカーテンで実現する快適生活」 講師:笠井利浩氏(福井工業大学教授)</p> <p>③10/3(土) 参加者29名 「福井の緑の変遷とこれから」 講師:藪内昭男氏(樹木医・自然再生士)</p> <p>④11/14(土) 参加者31名 「福井の水循環&amp;水利用~東京の教訓から考える~」 講師:人見達雄氏(元都庁職員)</p> <p>⑤12/5(土) 参加者39名 「気象からみた福井の環境」 講師:三浦麻氏(福井大学准教授)</p>
②ふくい環境ゼミナール(通称:ふくゼミ / 年間8講義) *受講生23名のうち、19名が卒業	
内 容	<p><b>目 的</b>環境の知識向上を図る(より専門的に学ぶ)機会を作り、環境活動に取り組む担い手の発掘と人材育成を行う。各講義の後は、ワーキンググループを実施する。</p> <p><b>講 義</b>・地域の対応策を考える「気候変動の地元学」(白井信雄/法政大学大学院教授) ・紙の資源循環、古紙の行方を考える(増田喜一郎/株増田喜専務取締役) ・これからのエネルギー社会と私たちの生活(橋本明弘/福井大学教授)など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
③家庭でできるエコ活動(5講義) *延べ74名受講	
内 容	<p><b>目 的</b>「家庭でできるエコ活動」について、地域の活動拠点である公民館において講習会を開催することにより、効果的な普及を図る(福井大学と連携)。今年度は「ごみの減量化」をテーマに、「家庭ごみ」に多く含まれる生ごみの堆肥化(生ゴミコンポストによる有機肥料の作製)と、その活用について講習会を実施する。</p> <p><b>【木田地区(参加者①14名、②10名、③25名)】</b></p> <p>①6/20(土) 「生ごみコンポストの講習会/福井市のごみの現状・ごみの減量化について」 ②9/5(土) 「生ごみコンポストで出来た堆肥を使った菜園の土作り/木田青かぶ苗植え」 ③12/19(土) 「菜園で育てた木田青かぶの収穫/青かぶを使った料理教室」</p>

【松本地区（参加者 13 名）】

①6/13（土） 「生ごみコンポストの講習会/福井市のごみの現状・ごみの減量化について」

【旭地区（参加者 12 名）】

①9/12（土） 「生ごみコンポストの講習会/福井市のごみの現状・ごみの減量化について」



(2) 福井市環境フェア「環境団体交流会」(活動発表・パネル展示) [10/10(土)]

**内 容** 様々な団体の環境に関する取組について、その担当者からの事例発表を聞くことにより、参加者が課題を共有し、また参加者同士の新しいネットワークの構築を図った(参加者 75 名)。

(参加団体)

- ・菜の花公夢典ひがしあご ・福井工業大学(笠井研究室)
- ・ふくい森の子自然学校(NPO 法人自然体験共学センター)
- ・NPO 法人ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)
- ・プラスチック容器包装リサイクル推進協議会(3R 推進団体連絡会)

\*上記団体の活動を紹介するパネルの他、市内小中学校の環境活動に関するパネルの展示も行った。

